

スクの在庫があると伺っており、町でも、現在のところ、約1,000枚のマスクを確保している。

稲垣 伸雄 議員

◎企業誘致、雇用対策について

問現在の見通しについて。

町長 今のところ具体的な接触はできていないが、人脈を通じて複数の企業の情報を収集しており、できる限り早期に経営者とコンタクトをとり、折衝活動を展開したい。

問農林業を生かした雇用の場づくりについて。

町長 即効策を見出すことは困難な状況ではあるが、新規就農者を育成することも継続して推進していくべきであると考えており、多面的には、農林業を生かした企業等の立地を促進することも視野に入れながら、積極的に企業誘致活動を推進していきたいと考えている。

雇用の場の創出は喫緊の課題であると認識しているので、精力的に取り組みたい。

◎不燃物の収集見直しについて

問ドラム缶の撤去について。

町長 不燃物が排出されている状況を見ると、一部のステーションでは、ドラム缶に収まりきらないものが缶の外に置かれていたり、飛散していたりするなど、必ずし

も整然としている状態とはいえず、景観上は好ましいことではない。その他、地区外からの通行者が、持ち込んで廃棄することも見受けられるようである。町全体のイメージにもかかわることであるので、ドラム缶（日吉地区はポリ容器）による収集方式は、町民の方々の

ご意見等をお聞きした上で、今後、撤去についても併せて検討したい。

問近隣市町の取り組みの導入について。

町長 現在、宇和島ブロックごみ処理広域化計画で1市3町が共同し、新規に集約したごみ処理施設を建設すべく協議検討を重ねているが、ごみ処理広域化の具現化のためには、必然的にごみの分別種類の統一化が必要となる。このため、他市町がすでに実施している有料ごみ袋の複数化を、将来検討していくことになる。こういう状況等を踏まえ、不燃物の収集方式は、今後、ごみの分別を徹底し、資源化を推進していくためにも、近隣の市町の不燃物収集システム等も参考にしながら、計画的に取り組みたいと考えている。

◎町政座談会のあり方について

問具体的な方法について。

町長 これまで公民館単位で行っているが、住民の方々の参加が少ないのは現実的な問題であり、「人を集める」のではなく「人が集まる場所へ出向く」手法への転

換も必要ではないかと考えている。日程的な調整など難しい問題もあるが、区の総会に出席させていたなど、より小さな単位の集まりに出向くことよって、住民の方々のご意見をきめ細かく聞かせていただけるのではないかと考えている。

いずれにしても、少しでも多くの住民の方々の意見が町政に反映できるようなシステムづくりについて、今後各地区の自治会・区長会などと十分に協議しながら、検討を進めたい。

横山 二郎 議員

◎林業・間伐について

問今後の取組み、展望について。

町長 森林林業を取り巻く環境は、木材価格の低迷等から厳しい状況下にはあるが、森林は木材の生産のみならず、水源のかん養、地球温暖化の緩和、土砂災害の防止、生物多様性の保全など、極めて多くの多面的機能を有しており、これらの機能の向上を図るとともに、高性能機械の導入や団地化施業地を推進するなど、コストの低減に努め、林家所得の向上が図れるよう、国や県の補助事業を活用して、今後も森林施業を積極的に推進していきたい。

◎老人ホームについて

問入居者数、待機者数について。

町長 養護老人ホーム広見広葉荘は、定員50人に対して入所者数45人、施設待機者数は0人である。現在、養護施設は、定員に至っておらず、待機者の健康状態等によって即入居可能である。本町の養護老人ホーム入所待機者数は7人であり、緊急性のある待機者は、町外施設を希望している方1人であり、残り6人は、現在、在宅での生活を希望されている。

特別養護老人ホームひろみ奈良の里は、定員50人に対して入所者数50人であり、現在の待機者数は296人である。特別養護老人ホーム勝山荘は、定員50人に対して入所者数50人であり、現在の待機者数は140人である。宇和島広域管内には、特別養護老人ホームが9施設あり、各施設への入所申し込みが重複しているため、両施設とも待機者数が多い状況になっている。

町長 介護保険制度適用施設等において無届施設はない。

町長 施設ごとに「災害対策マニュアル」を策定し、施設職員も適正に配置されており、避難訓練も年2回行っている。

◎民間施設の増加問題について。

町長 町への届出を必要としない有料老人ホームは、県に対して情報を提供するとともに、届出など